

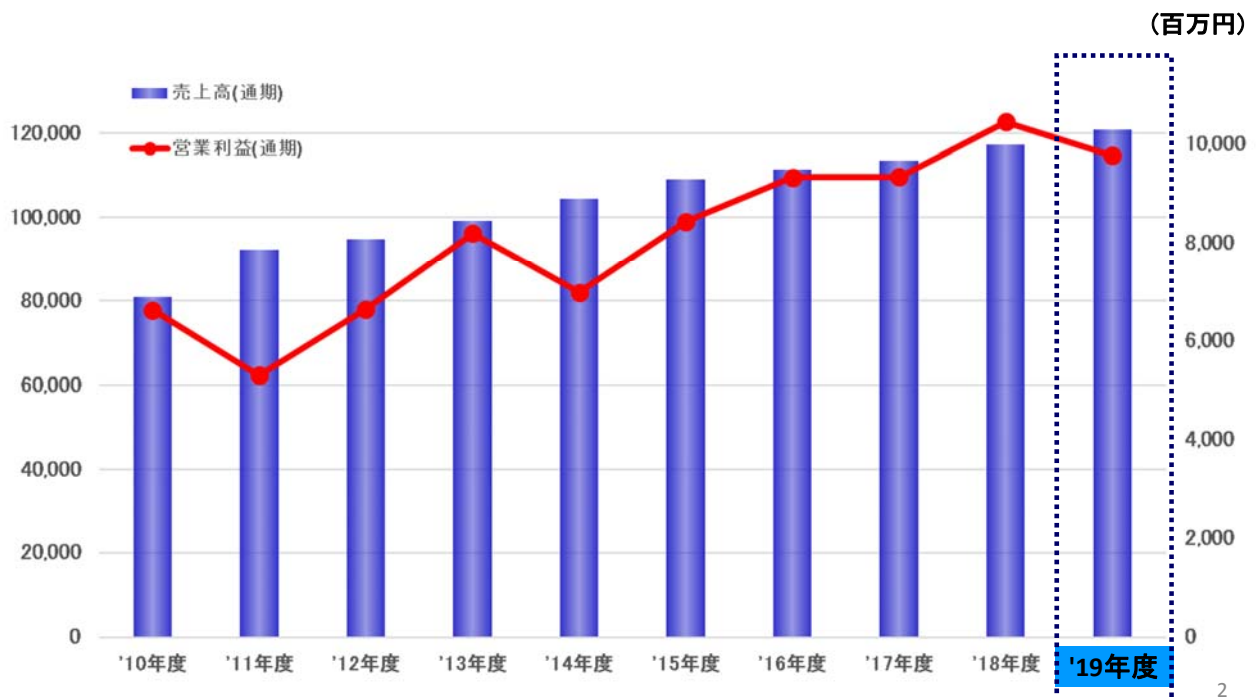
# 株式会社ビー・エム・エル

## 2019年度決算説明会

2020年5月13日  
代表取締役社長  
近藤 健介

## 10年間 業績推移

【売上高は過去最高を更新したものの営業利益は減益】





## 前年度比較表

(百万円)

	'18年度	'19年度	増減額	増減率	通期計画	達成率
売上高	117,129	120,732	3,603	3.1%	120,100	100.5%
検査事業	111,315	115,022	3,707	3.3%	114,000	100.9%
臨床検査	106,632	110,113	3,481	3.3%	108,980	101.0%
その他検査	4,682	4,908	226	4.8%	5,020	97.8%
医療情報システム	4,350	4,202	-147	-3.4%	4,400	95.5%
その他事業	1,464	1,507	43	3.0%	1,700	88.6%
営業利益	10,450	9,763	-686	-6.6%	10,600	92.1%
経常利益	10,880	10,211	-668	-6.1%	11,100	92.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,646	6,375	-271	-4.1%	6,800	93.8%

3



## 前年度比較表

(百万円)

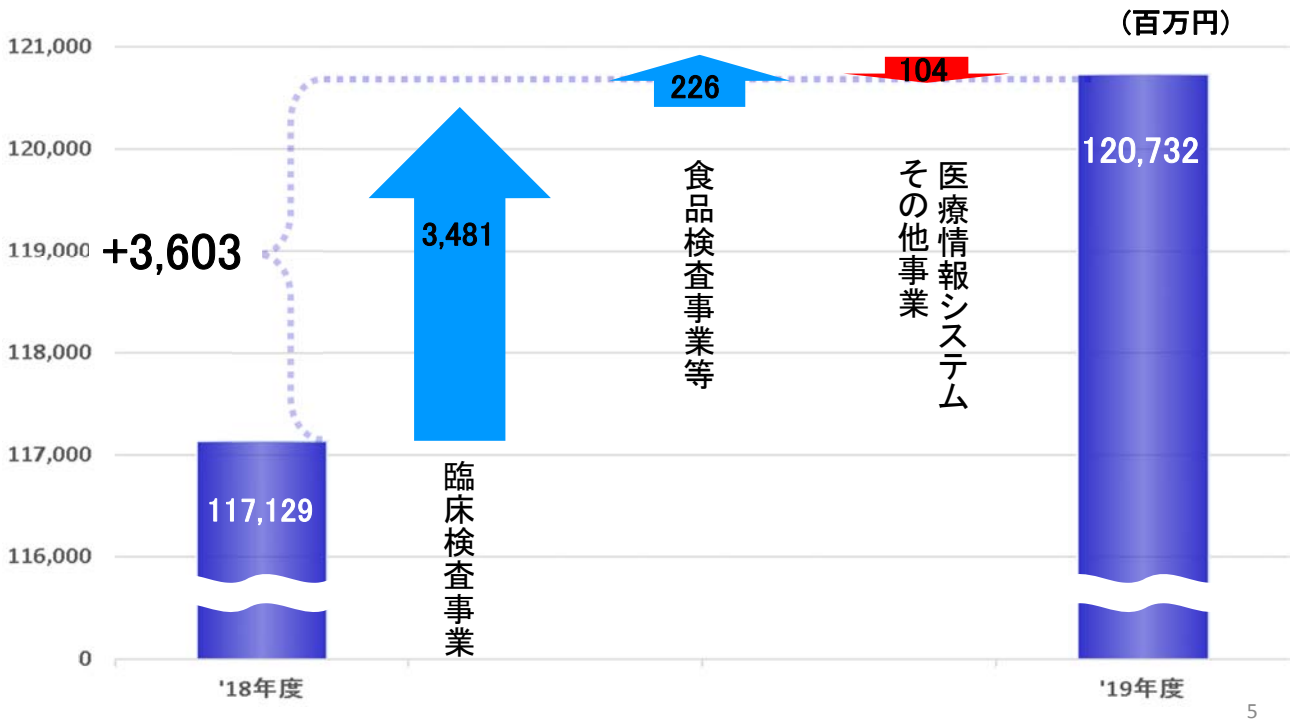
	'18年度	'19年度	増減額	第4四半期 (1月～3月)	
				増減額	増減額
売上高	117,129	120,732	3,603	27,875	-138
検査事業	111,315	115,022	3,707	26,533	-121
臨床検査	106,632	110,113	3,481	25,265	-153
その他検査	4,682	4,908	226	1,267	32
医療情報システム	4,350	4,202	-147	963	-21
その他事業	1,464	1,507	43	378	3
営業利益	10,450	9,763	-686	821	-851
経常利益	10,880	10,211	-668	977	-812
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,646	6,375	-271	563	-446

4



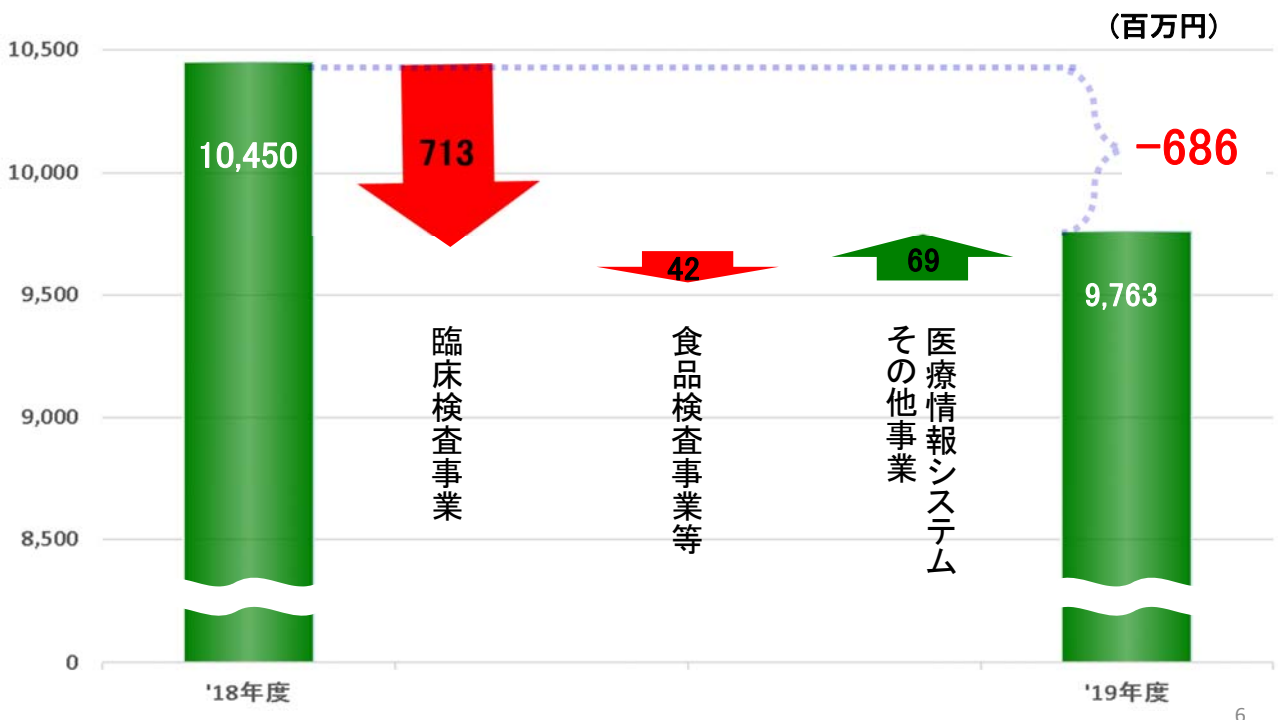
## 事業別売上増減の内訳

売上高 前期比 36億3百万円(3.1%)増収



## 事業別利益増減の内訳

営業利益 前期比 6億86百万円(6.6%)減益

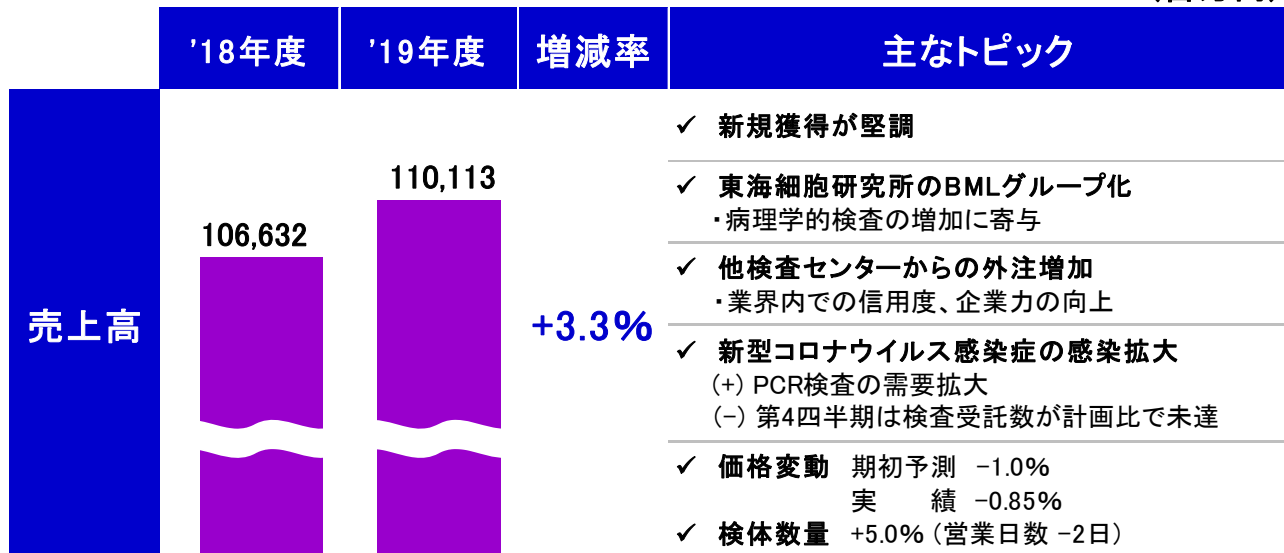




## 臨床検査事業の概要

売上高 1,101億13百万円  
 前期比 34億81百万円(3.3%)増収

(百万円)



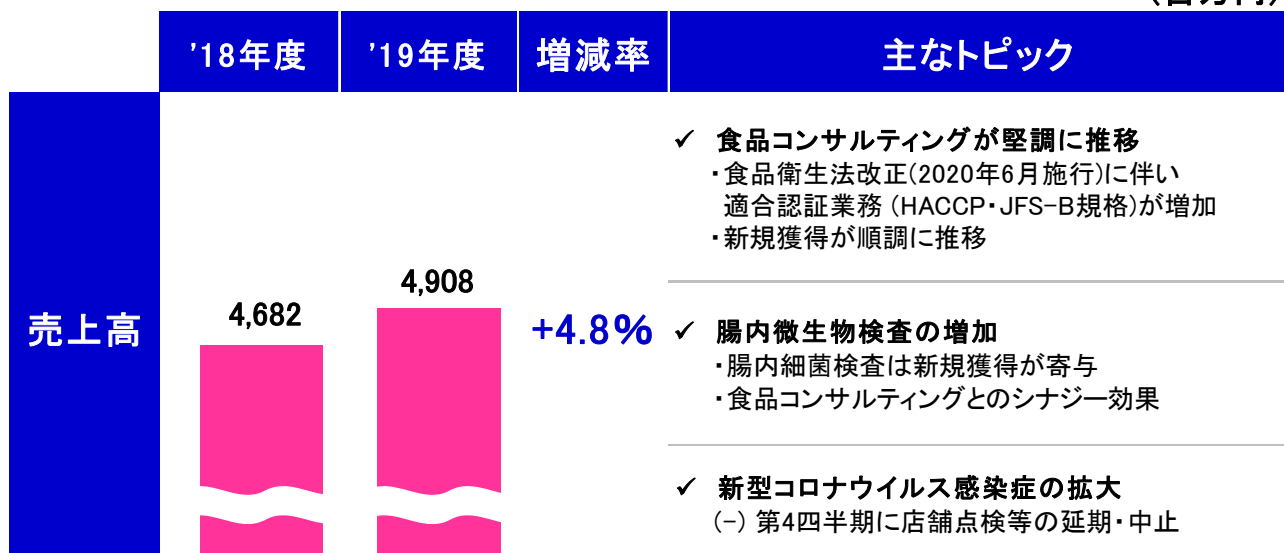
7



## 食品検査事業等の概要

売上高 49億8百万円  
 前期比 2億26百万円(4.8%)増収

(百万円)

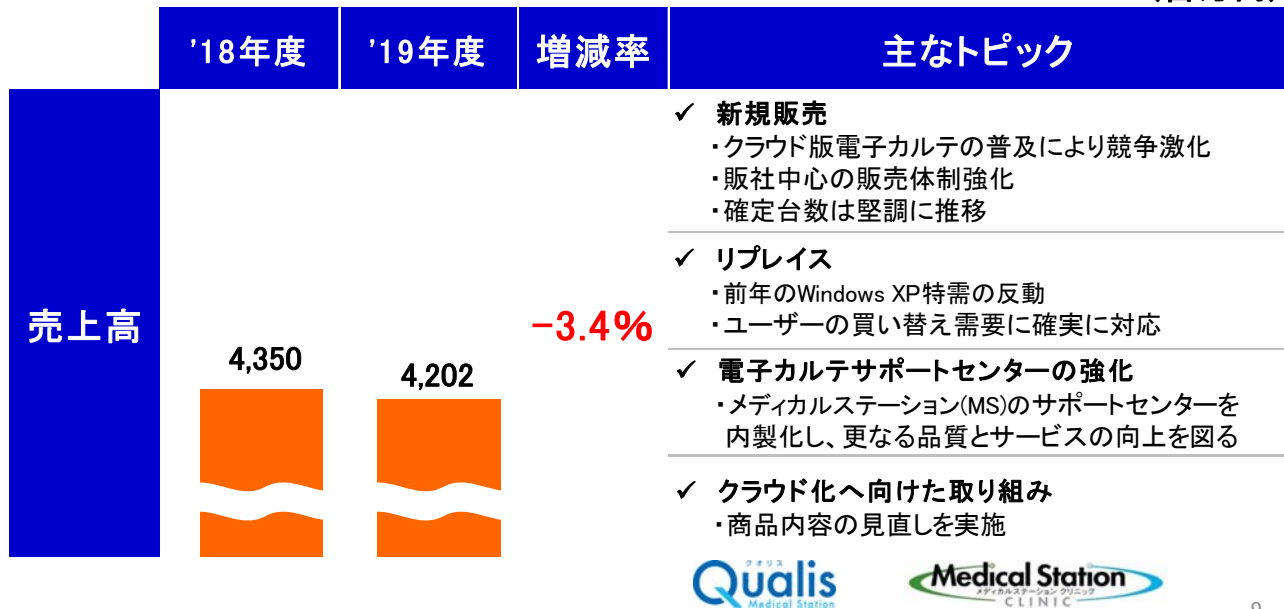


8

## 医療情報システム(電子カルテ)の概要

売上高 42億2百万円  
前期比 1億47百万円(3.4%)減収

(百万円)

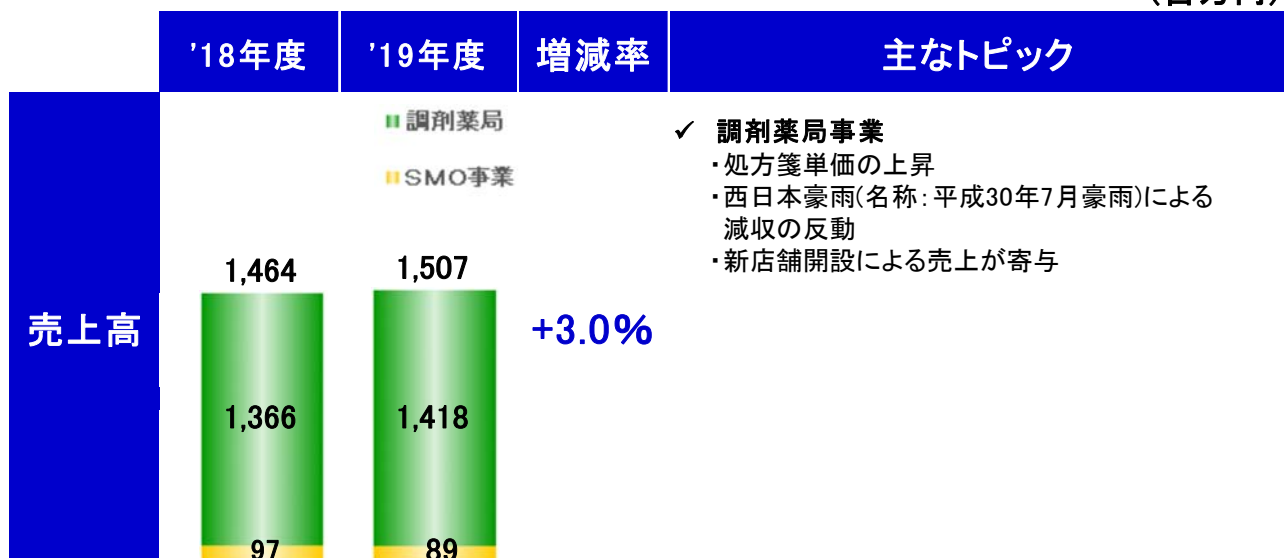


9

## その他事業の概要

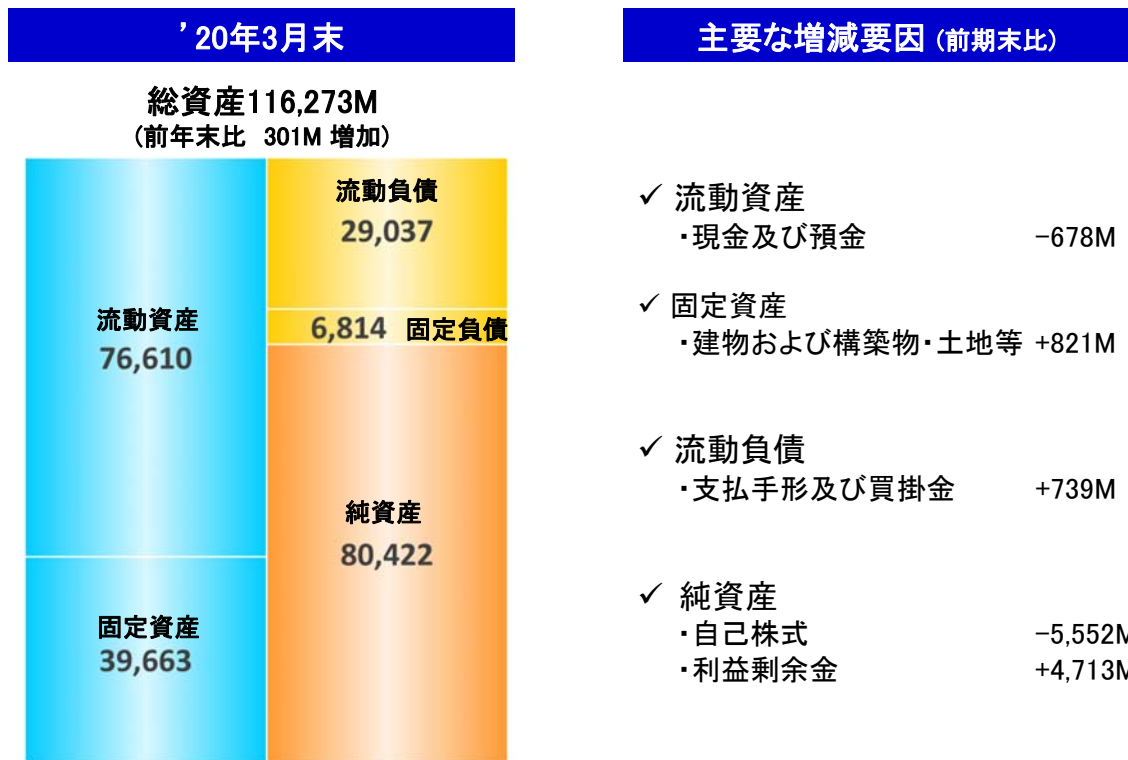
売上高 15億7百万円  
前期比 43百万円(3.0%)増収

(百万円)

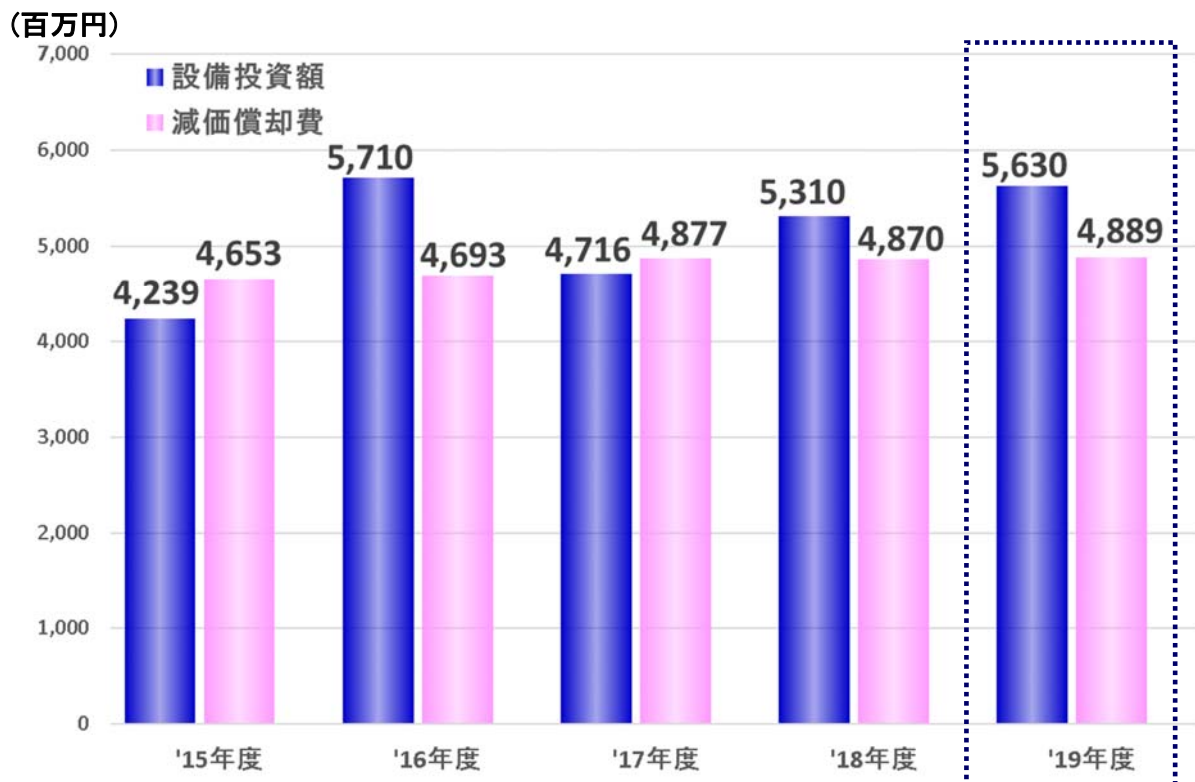


10

## 連結貸借対照表の概要



## 設備投資額・減価償却費の概要



## キャッシュフローの概要

	'18年度	'19年度	(百万円) 増減
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>12,507</b>	<b>12,771</b>	<b>263</b>
税金等調整前当期純利益	10,844	10,175	-668
減価償却費	5,020	5,043	22
売上債権の増減額	-1,052	478	1,530
法人税等の支払額	-3,398	-3,690	-292
その他	1,093	763	-329
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-3,940</b>	<b>-5,213</b>	<b>-1,272</b>
有形固定資産の取得による支出	-2,603	-2,939	-336
無形固定資産の取得による支出	-1,234	-1,168	65
その他	-103	-1,105	-1,002
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-3,041</b>	<b>-8,784</b>	<b>-5,742</b>
リース債務の返済による支出	-1,357	-1,355	1
配当金の支払額	-1,554	-1,661	-107
自己株式取得による支出	0	-5,578	-5,577
その他	-129	-188	-59
現金及び現金同等物の期首残高	43,679	49,204	5,525
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	268	268
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>49,204</b>	<b>48,246</b>	<b>-957</b>

13

## 第7次中期経営計画の進捗

14

【医療界に信頼され選ばれる企業をめざす】

品質・サービス No.1へ

地域サービス No.1



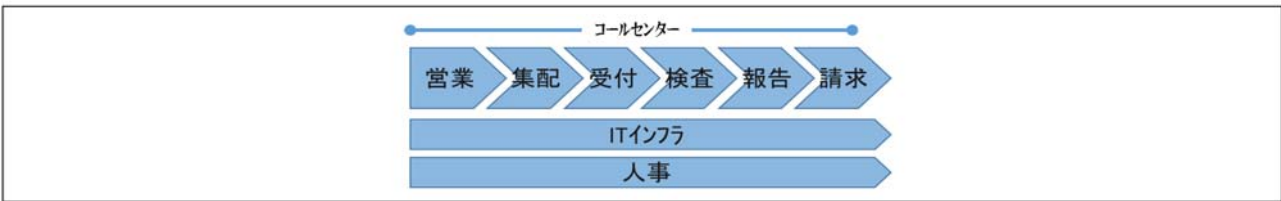
検査ラインアップ No.1



医療界への貢献 No.1



品質 No.1



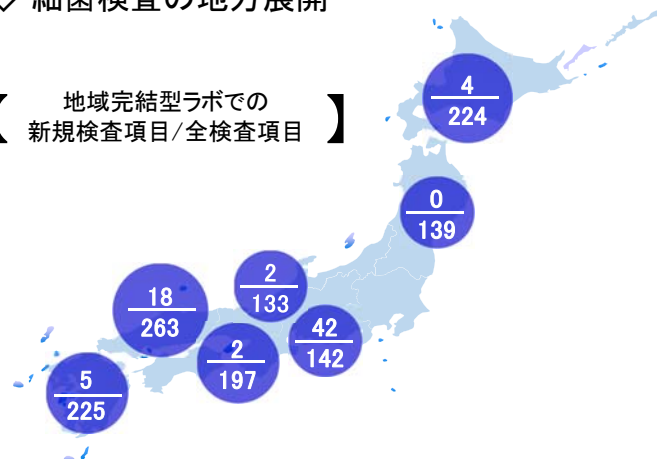
## 2019年度 中期経営計画の進捗

『品質・サービスNo.1へ』



- ✓ 検査システムの統一
- ✓ 東海細胞研究所のグループ化
- ✓ 緊急性を要する検査項目を地域完結型ラボで実施
  - ◇ 検査項目を拡充
  - ◇ 細菌検査の地方展開

【 地域完結型ラボでの新規検査項目/全検査項目 】



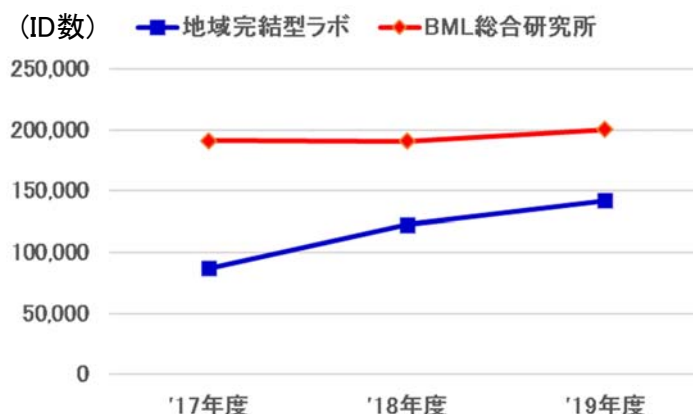


## 『品質・サービスNo.1へ』



### ◇ 細菌検査の地方展開

【 血液培養数 】



## 『品質・サービスNo.1へ』



### ✓ 新規検査項目の開発

#### ◇ 「遺伝性疾患」・「悪性腫瘍」に関する独自検査を開発

##### 【 18年度 】

1. 家族性高コレステロール血症 (FH) の遺伝子検査 (NGS解析パネル)
2. 若年発症型両側性感音難病の遺伝子検査
3. マロープラズマ10カラー

##### 【 19年度 】

4. 家族性高コレステロール血症 (FH) の遺伝子検査 (MLPA解析)
5. 家族性高コレステロール血症 (FH) の遺伝子検査 (保因者検査)
6. 先天性赤血球形形成異常性貧血 (CDA) の遺伝子検査
7. 骨髄微小残存病変測定/遺伝子再構成の同定・モニタリング

#### ◇ 新規検査項目として79項目を拡充 ( 18年度 43項目 19年度 36項目)

### 『品質・サービスNo.1へ』



✓ 「AIホスピタル」への参画

✓ 臨床研究の支援

✓ ラボラトリーフォーラムの開催

内 容

- ・「標準採血法ガイドライン(GP4-A3)改訂のポイント」
- ・「自己血糖測定やPOCT対応機器使用検査時における指先からの正しい採血方法」
- ・「神経損傷予防のポイント」
- ・血管迷走神経反射を中心とした採血急変対応」

✓ 大学研究室への支援

◇ 信州大学医学部 クリニカル・シークエンス講座

→ 遺伝性・先天性疾患の遺伝学的検査を用いた診断法の確立

### 『品質・サービスNo.1へ』



✓ 血清分離ラボの増設

✓ 病理学的検査の精度向上

✓ 電子カルテサポートセンターの強化

✓ 検査精度の向上

◇ 集配時における検体温度管理の厳格化

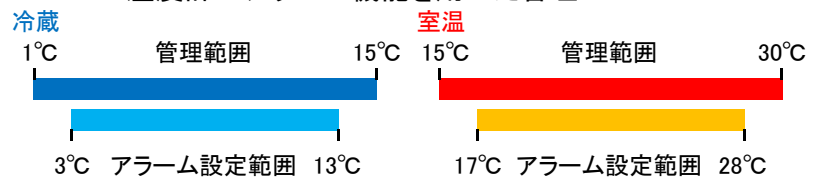
## 『品質・サービスNo.1へ』



- ◇ 集配時における検体温度管理の厳格化  
→ 見える場所へデジタル温度計を設置



→ 温度計のアラーム機能を用いた管理



## 業績予想

- ✓ 2020年度業績予想は未定とする
  - ◇ 新型コロナウイルス感染症による影響の程度が不透明であり、合理的な算定を行うことが困難
  - ◇ 合理的な算定が可能になりましたら速やかに公表

# コスト削減策

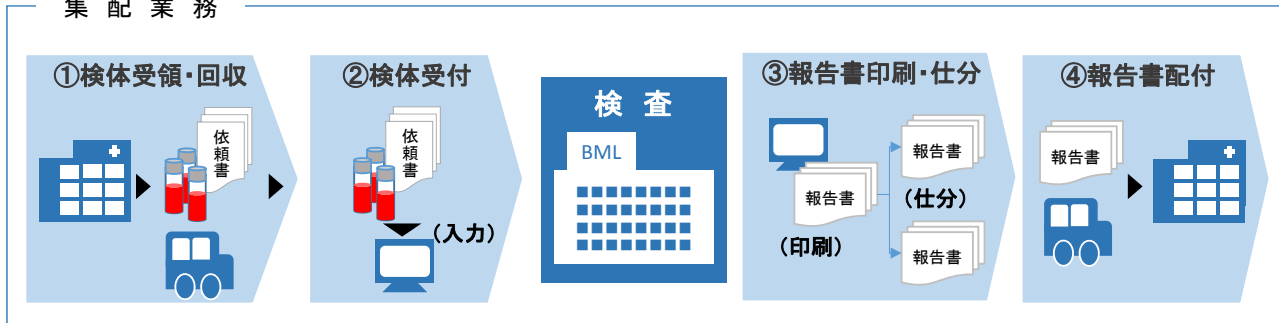
## 【B-Label】

- ◇ 医療機関によるバーコード付き検体ラベルの貼付  
→ 検体受付時間の削減

## 【B-Report】

- ◇ 検査結果報告書の電子化  
→ 報告書業務の効率化

### 集配業務



①検体受領  
作業時間の短縮

②検体受付入力  
業務の削減

③報告書印刷  
仕分け業務の削減

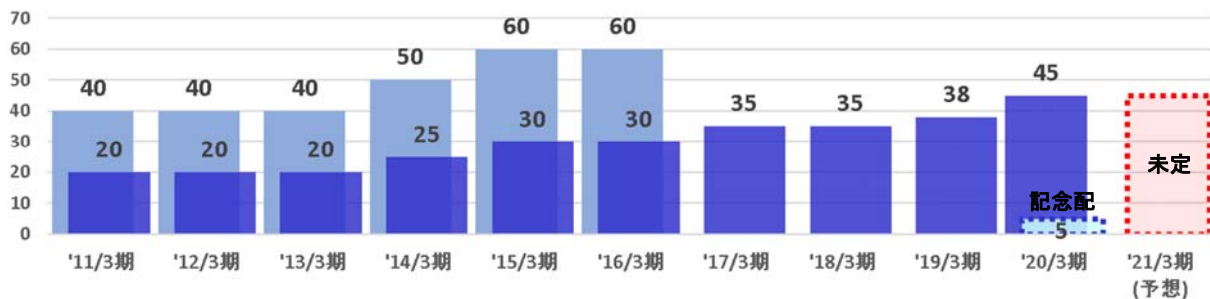
④報告書配付の  
ための訪問削減

②・③想定コスト削減効果： 5億円/年間

# 株主還元 配当金

安定配当の維持、継続を基本方針とします

(円)



(注) '16年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割をしています。

(注) '20年3月期、期末記念配 5円を含め 45円を予定しています。

# 新型コロナウイルス感染症について

25

## 新型コロナウイルス感染症について

### 現状報告

#### ✓ 検査方法

◇ 遺伝子検査：PCR法※1ならびにLAMP法※2

#### ✓ 検査実施場所

◇ BML総合研究所 ※1

◇ 北海道 ※1・2 (5月下旬) ・岡山 ※2 (5月中旬)  
九州 ※1・2 (6月上旬)  
順次実施予定

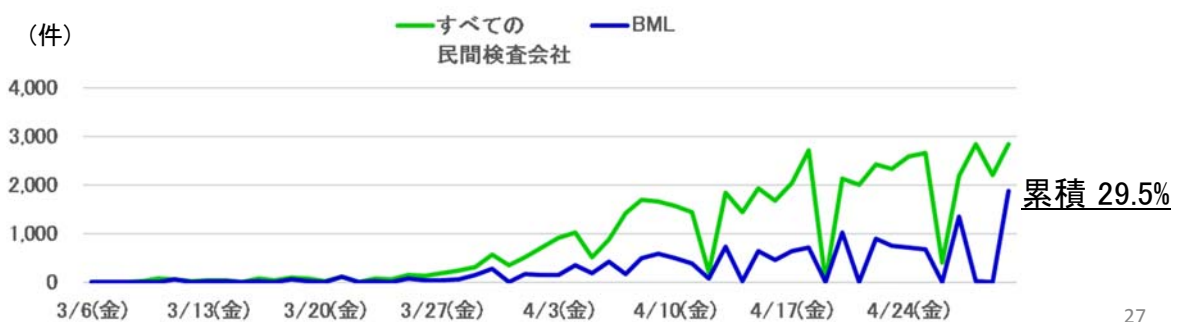
#### ✓ 報告日数

◇ 報告書配付：2日(翌日)～5日  
(FAXを使用することで約95%が翌日報告)

26

## 現状報告

### ✓ 検査実施数（報告基準）



27

## 現状報告

### ✓ 抗体検査の実施について

#### ◇ 医療的ニーズ

- ・既感染を証明する検査
- ・すでに実施しているPCR検査と併用することで、より適切な治療を含めた対応を行うための指針となる
- ・抗体保有者の実態調査などの疫学研究として有用

◇ 抗体検査法 : CLIA法、あるいはECLIA法での受託を検討

◇ 検査の受託 : 2020年6月1日受託開始を予定

28



## 当資料取り扱い上の注意点

### ＜将来に関する記述等についてのご注意＞

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。